



令和8年度 第1回普及活動検討会

プロジェクト課題No.1

経営継承後の農業法人における ねぎ、うめの規模拡大と生産性向上

大河原農業改良普及センター

計画期間:令和7～9年度

対象者 : 株式会社舘島田ファームDero(役員3人、社員2人)

チーム員:◎菅野、高橋、綾井、伊藤、小林

1. 対象者の概要

(株)館島田ファームDero (角田市)

変遷

H26 集落営農組織から農事組合法人へ

↓若手3人(30～50代)に経営継承

R6 株式会社 館島田ファームDero設立

経営(R8)

水稻52ha 麦5ha ねぎ3ha

うめ5ha 梅干し24t(見込み) 他

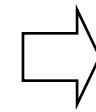
体制 役員3人、正社員3人、パート従業員



2. 課題の背景

法人の特徴

- ▶ 若手に世代交代して3年目
- ▶ 従業員を周年雇用＋若手社員(20～30代)
- ▶ 園芸作物・加工に取り組んでいる



先進事例となる重要な法人
体制整備、技術向上が必要

法人の目標: 令和9年の年間売上1億円

- ▶ 収益向上、周年雇用のための園芸作物の強化
 - ➡ **ねぎの収量向上、うめの規模拡大**
- ▶ 適期作業の実現に向けた組織運営の効率化
 - ➡ **作業計画作成・管理体制の見直し**

3. 昨年度の成果・課題

ねぎ

- ▶ 育苗や病害虫防除等の基礎的な技術習得が図られた。
 - ➡ 他品目との作業競合により作業が遅れたため、栽培体系の見直し、作業の適期実施が課題。

うめ

- ▶ 苗木管理や新植時の土づくり等の技術習得が図られた。
 - ➡ 若木の育成や省力化を目的とした成本管理が必要。

労務管理

- ▶ 役員間で情報共有の場が持たれ、重要性について認識が深められた。
- ▶ 進捗管理のために大型モニターが導入されるなど、体制整備が進んだ。
 - ➡ 効率的な進捗管理の実践と定着が必要。



ねぎ栽培の振り返り

4. 活動目標と活動事項

【令和8年度】

定性的目標

- ▶ 習得した栽培技術を活用し、ねぎ、うめの適期作業が行われる。
- ▶ 労務配分や作業計画の改善に向けた具体的な取り組みが行われる。

定量的数値目標: ねぎの10a当たり収量(t)

	R6(現状)	R7	R8	R9
目標	1.5	1.8	2.1	2.5
実績	—	1.5		

単位:t/10a

活動事項

- ① ねぎの収量向上に向けた適期管理指導
- ② うめの園地拡大に応じた栽培管理指導
- ③ 労務配分計画実践に向けた支援

5. 活動状況

①ねぎの収量向上に向けた適期管理指導

(a)栽培体系の見直しと実践

- ・栽培に適したほ場を選択し、4ha→3haへ縮小
- ・2作型(初夏、秋冬どり)から、秋冬どりに限定したことにより作業負担・作業競合が軽減した



ねぎの生育状況(7月下旬)

(b)作業スケジュールの可視化

- ・作業時期や回数の目安が共有され、防除、土寄せ等が適期に実施できている

R8ねぎ(秋冬どり)作業スケジュール(案)									
※取組内容は令和6年1月28日通告のものです。農地の農事年度増減は確認してください。									
作業時期	作業内容・薬剤		RACコード	適用対象	希釈倍率	使用時期	使用回数	散布方法	
2	前草期	育苗							
		殺菌	エポルドー	FMI	防霉病、べと病	500倍	育苗前～育苗期	-	※1
3	定植後	ほ場準備							
		定植							
4	育苗期	除草	ゴーゴーサン乳剤30	H3	一年生雑草	200～300ml/10a	定植後(雑草発生前) 保し定植10日後まで	1回	全面土壌散布
		除草	トレフアノサイド粒剤2.5	H3	一年生雑草(ツクサササ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	4～5kg/10a	定植後雑草発生前 保し、収穫30日前まで	2回以内	全面土壌散布
5		殺菌							
		殺虫							
6		追肥・土寄せ①							
		中耕							
7	上旬	殺菌	アミスター20フロアブル	F11	葉斑病・葉枯病、さび病、べと病	2000倍	収穫3日前まで	4回以内	
		殺虫							
8		追肥・土寄せ②							
		中耕 除草	ロロックス	H5	一年生雑草	100～150kg/10a	定植後 保し、収穫30日前まで(雑草発生前)	1回	畦間土壌散布
9		殺菌	ダコニール1000	FMS	葉斑病・葉枯病、さび病、べと病	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	
		殺虫	アファーム乳剤	2B	アザヒクマダ、シロイネモミジ、ハモグリハクダ	1000倍	収穫7日前まで	2回以内	
10		追肥・土寄せ③							
		中耕 除草	ナブ乳剤	H1	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	200ml/10a	雑草発生前(イネ科雑草2～4葉期) 保し収穫30日前まで	1回	畦間土壌散布又は全面散布

提案した作業スケジュール

5. 活動状況

①ねぎの収量向上に向けた適期管理指導

(c)病害虫及び雑草防除の助言

- ・定植直後からの中耕や除草剤散布が徹底され、4～5月の雑草発生を抑制、初期生育が確保できた

- ・降雨により病害の発生が例年より多いが、適期の予防散布により被害拡大を抑えられている

(d)施肥体系の見直し

- ・追肥回数や施肥量の削減による効率的な施肥に向け、土壌分析、土壌データ測定を定期的の実施している



現地巡回の様子

土 壌 診 断 結 果									
分析実施 大河津普及センター 分析日 R8.1.27									
氏 名	深谷田アールJA Dero			品 目	ネギ				
地 域	角田市			作 業	秋まき				
番 地	JAみやぎ山南			圃場の標記	露地				
肥 料	No.14			土 壌	不明				
圃 場				栽培面積					
項 目	分析値	基準値(目標)		判 断					備考
pH	8.33	6.0	~ 8.5	適	★	★	★	★	
EC	0.04	~	0.3	適	★	★	★	★	上野市農林事務所
硝酸態窒素 (mg/100g)	2.37	~	5	適	★	★	★	★	上野市農林事務所
有効型リン酸 (mg/100g)	5.8	20	~ 50	不足	★	★	★	★	上野市農林事務所
石灰 (CaO) (mg/100g)	260	188	~ 210	適	★	★	★	★	
苦土 (MgO) (mg/100g)	57	30	~ 45	適	★	★	★	★	
加里 (K2O) (mg/100g)	63	38	~ 35	適	★	★	★	★	
CEC	15	~	20	適	★	★	★	★	鹿児島県
堆肥含有率 (%)	50.4	40	~ 30	適	★	★	★	★	鹿児島県
石灰/苦土比	3.3	8	~ 5	適	★	★	★	★	
苦土/加里比	1.9	2	~ 5	適	★	★	★	★	
●ネギ(秋まき)の適期基準と土壌診断結果に基づく施肥必要量									
施肥基準 (kg/10a)	22	リン酸		20					
施肥必要量 (kg/10a)	22	9 ~ 7.5		9					

土壌分析結果の一例

5. 活動状況

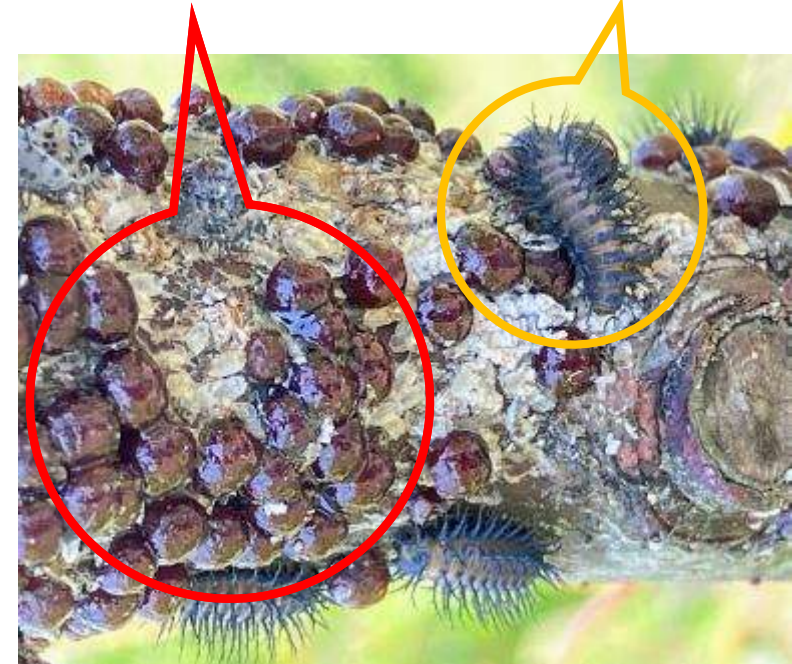
②うめの園地拡大に応じた栽培管理指導

(a)病害虫対策の助言

- ・防除暦に準じて適期に防除された結果、病害虫が多発することは無く、収穫量も確保された
- ・一部で発生しているカイガラムシ類の被害拡大防止に向け、経過観察と適切な防除を行う予定

枝に発生した
タマカタカイガラムシ

土着天敵の
アカホシテントウ幼虫



5. 活動状況

②うめの園地拡大に応じた栽培管理指導

(b)若木ほ場の管理指導

- ・定植前の適切な土づくりや天候により、生育は概ね順調
- ・除草作業が行われ、生育環境が改善
若木の生育を促すための除草の重要性が認識された
- ・生育を促すために、夏季から秋季にかけて2回に分けて追肥することとなった



↓ 【一昨年】若木ほ場(7月)



【今年】若木ほ場(7月)

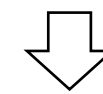
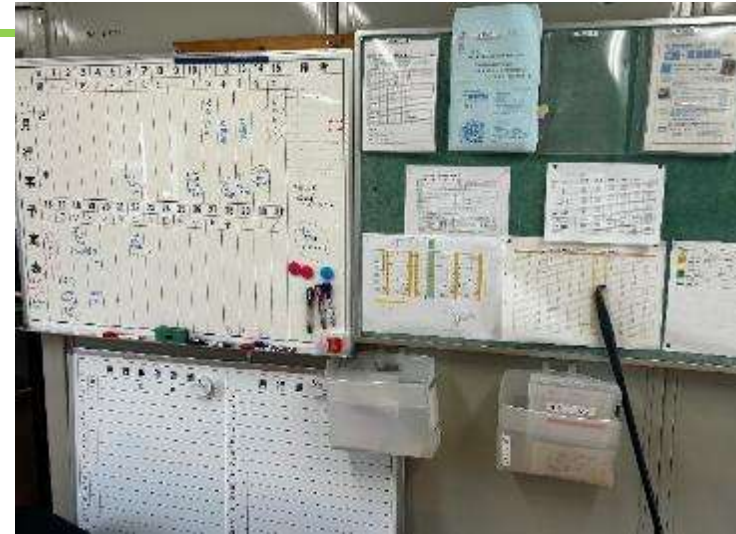
5. 活動状況

③労務配分計画実践に向けた支援

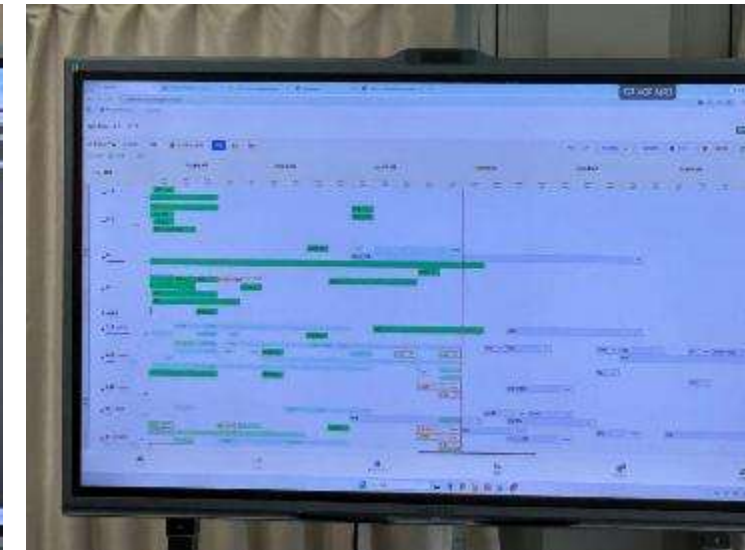
(a)業務進捗の共有の働きかけ

- ・大型モニターで業務を管理・共有
 - ▶ 進捗状況をスマホで確認
 - ▶ 優先順位の付けやすさが向上
 - ▶ 円滑な労務配分

+ 短期アルバイトの雇用計画に活用



【昨年まで】ホワイトボード等で管理



【今年】モニターで管理

5. 活動状況

③労務配分計画実践に向けた支援

(b)4～7月の作業の振り返りを実施

- ・①課題、②できたこと、③次作に向けた対策について意見を出し合った
- ・各品目の課題が整理され、次作の生産計画に活用することとなった

- ・ねぎの雑草対策は改善が必要
 - ・大幅な作業遅れが減った
 - ・水稻の省力化技術を勉強したい
- など



作業振り返りの様子

部門	課題（気づいたこと）	対処（できたこと）	次年度に向けた対策
ねぎ	計画どおりに作業できたが、思ったよりも雑草が発生した。	人手を確保して、一斉に作業したので計画通りにできた。	計画通りに作業したにもかかわらず雑草が発生したので、作業計画、初期除草体系の見直しが必要か？ ☆ドローンによる空撮が普及センターでできる。 →活用方法について法人と考える
うめ	冬場に手をかけてせん定も強くしたほ場で収量が上がった。	収量 R7 21% → R8 24%	樹平しの材料は足りていない ・せん定は昨年と同様強くなる ・ほ場等の生産性について見える化する
水稻 (移植)	今年、育苗作業も変更 育苗器→育苗ハウスに直接並べ、ハイホワイトシルバーをべた掛け 発芽日数が3日→7日に延長	育苗時の大幅な省力化が図られた	一部苗で白化が見られ、生育が遅れた。 水稲栽培について、勉強したい。
水稻 (湛水直播)	思ったような成果はまだ出ていない。 作業の簡便化、ほ場の直視化が必要	とるほ場に田植え機を入れないので、機械が壊れるリスクが減った。	来年も取り組みたい ・雑草が増えてきている（R7R8、R9R10）※去年から ・生育が遅く、初期の湛水で雑草が育った場所もあった
大豆	R7秋播種 収穫は早くできた。除草剤の散布はで	収量は取れた 数量払いで支払われる見込み。	収穫も早めたい（R7 11/5～R8 10月下旬） R8よりR7は早く播く。雑草防除に効果が見られた。しばらく

振り返りシート

6. 今後に向けて

①ねぎの収量向上に向けた適期管理指導

- ▶ 追肥の時期や量の見直し、適期防除の指導
- ▶ 作業計画と実績の振り返り、改善点の洗い出し

②うめの園地拡大に応じた栽培管理指導

- ▶ 若木の生育を経過観察し、適宜栽培上の提案
- ▶ 成木ほ場の秋季の施肥、樹齢や樹冠に応じた冬季せん定の助言

③労務配分計画実践に向けた支援

- ▶ 秋作業終了後に各品目の課題を改めて整理
- ▶ 次年度の生産計画策定を支援